

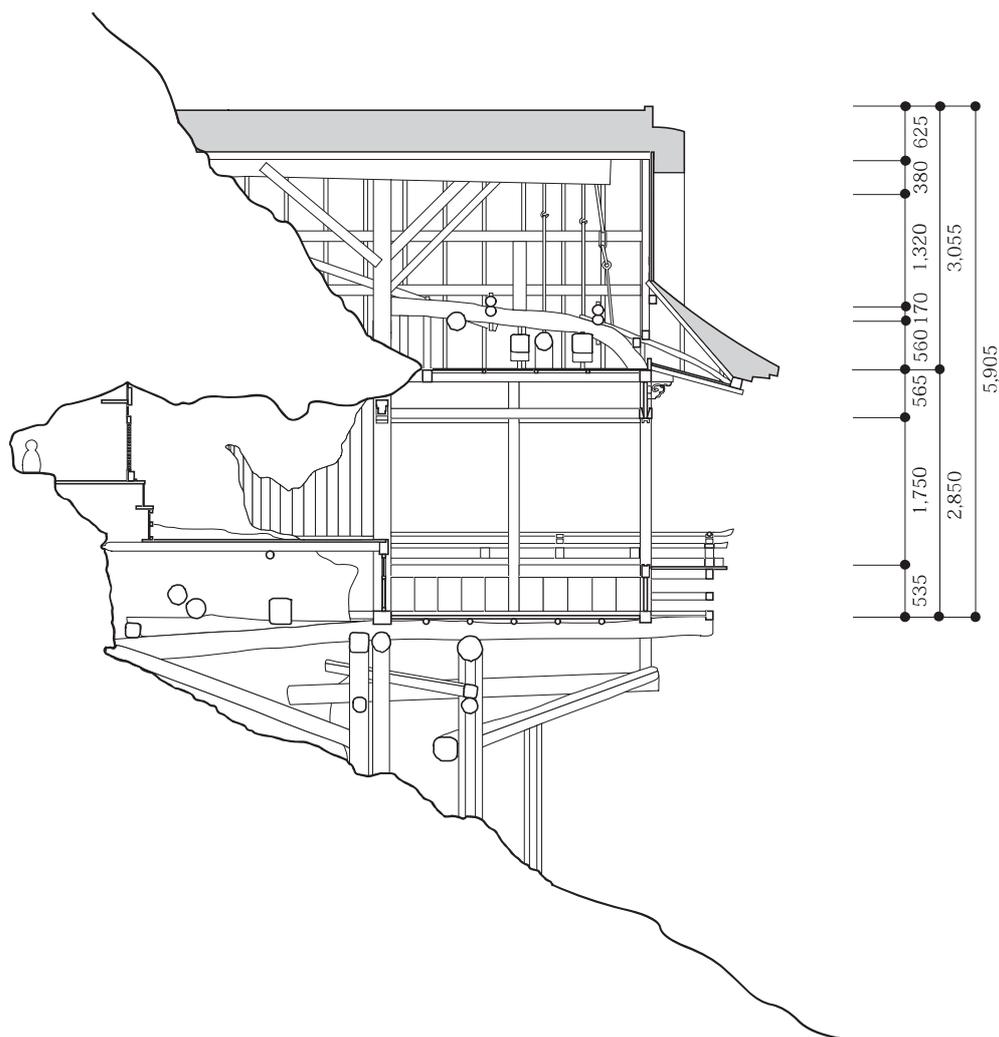
# 報告 2 号

(長野市地方文化財保護審議会 平成30年 2 月 2 日付け答申)

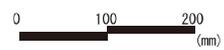
## 長野市指定文化財指定調書

文化財の種別	有形文化財(建造物)	
ふりがな	やくしじんじゃしゃでん(ぶらんどやくし)	
名 称	八櫛神社社殿(ブランド薬師)	
員 数	1 棟	
所有者の氏名・名称	宗教学法人 八櫛神社 宮司 五明 貴寿	
住 所	長野市松代町西寺尾 9 2 3 番 1	TEL 026-278-2673
管理者の氏名・名称	八櫛神社 責任総代 松木 善昭	
住 所	長野市北郷 2 8 2 8 番地	TEL 026-239-3046
指 定 基 準	<p>「長野市指定有形文化財等の指定等に関する基準」 第 1 (7) 建造物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 技術的に優秀なもの</li> <li>ウ 歴史上重要なもの</li> <li>エ 学術上重要なもの</li> </ul> <p style="text-align: right;">に該当</p>	
指 定 理 由 等	<p>八櫛神社は、元禄10年(1697)に松代藩による堂宮改(調査)が行われたことが記録に残された最初である。建物は、弘化4年(1847)の善光寺大地震により崩落したが、その後、再建工事が行われ、文久元年(1861)に完成している。大正4年(1915)、昭和36年(1961)など複数回の改修工事を繰り返しながらも、再建当初の姿を現在に伝えている。</p> <p>本建造物は、伝統的な木造で2間×3間の規模を有する拝殿から岩窟の奥へと幣殿を経て、石像の安置される本殿へ続く構成になっている。懸造の建築様式をとっているが、一般的な懸造の多くが床下の長い柱で支えられた構造を持つのに対して、社殿の大部分を奥の岩に穴をあけて出した3本の水平材で支えている。この水平材は岩穴にコンクリート等で固定されているわけではなく、てこの原理によって水平材を支え片持ち梁を岩から突出させている。この床下の架構は、極めて独特で八櫛神社最大の魅力である。</p> <p>八櫛神社は、ブランド薬師の名で広く知られ、国土地理院地形図にもブランド薬師の記載がある。ブランド薬師の名称は、諸説あるが、菅江真澄「来目路の橋」では不落堂、井出道貞「信濃奇勝録」ではフラン堂、ふらん堂の名が、「善光寺名所図会」ではぶらんど薬師の名称が登場する。古くから、信濃国の名所であったことが伺える。</p> <p>八櫛神社は、独特な架構を用いて急崖構築された懸造の建造物であるが、建築構造の保存がなされている。景観的にも恵まれた場所に立地し、地域住民から親しまれている。文化財的価値が高い本建造物は長野市地方文化財にふさわしいものである。</p> <p>長野市の有形文化財(建造物)として指定することが適当である。</p>	

# 断面図



八櫛神社 桁行断面図 (S=1/80)



## 写真

写真1 (2016. 7. 10)  
西側 外観



写真2 (2016.8.31)  
南西側 外観



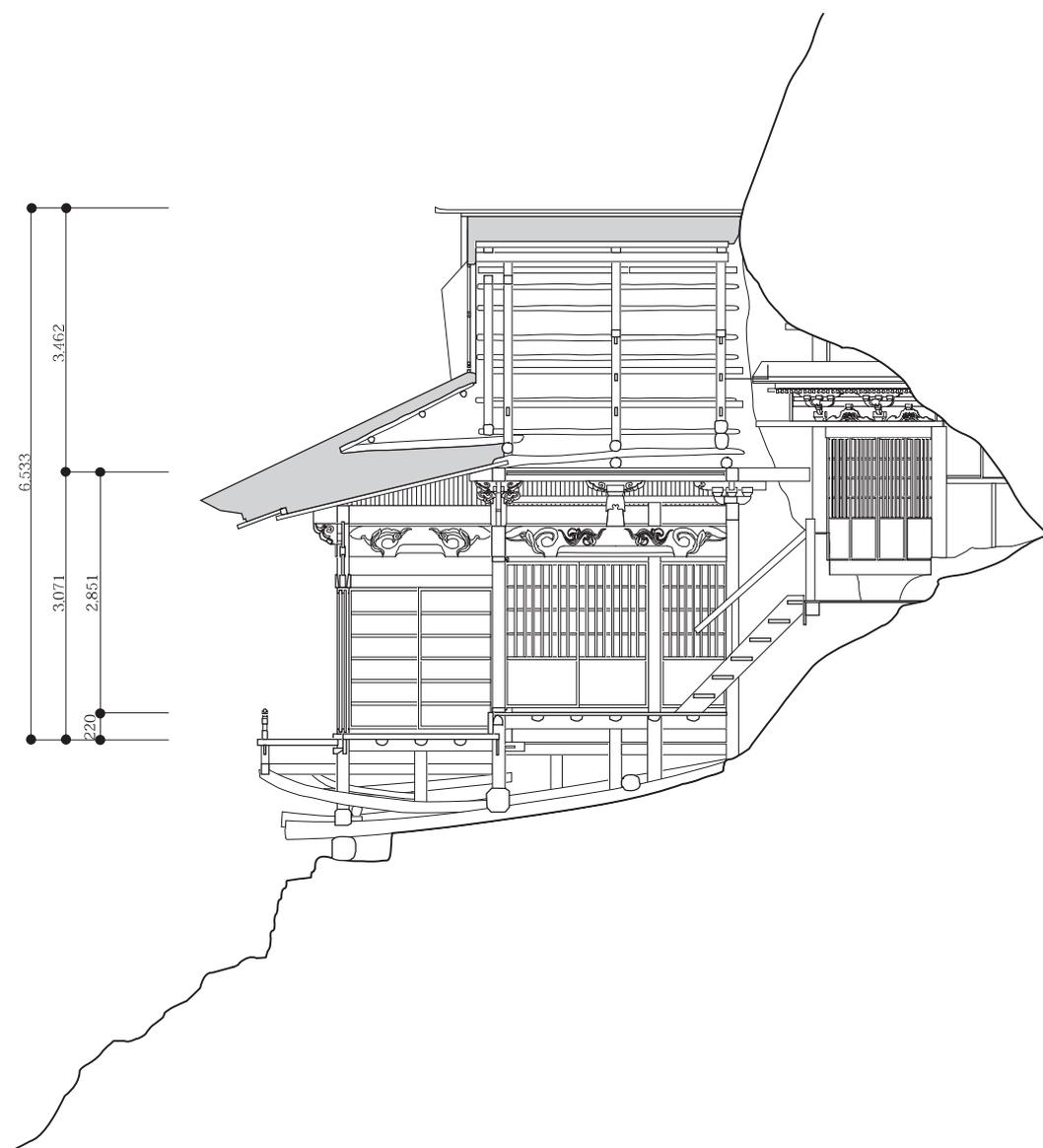
写真3 (2016. 7. 10)  
南西側 下から 外観



## 長野市指定文化財指定調書

文化財の種類別	有形文化財(建造物)	
ふりがな	とがくしたがしらのがんくつかんのんどう	
名称	戸隠田頭の巖窟観音堂	
員数	1棟	
所有者の氏名・名称	田頭区 巖窟観音堂	
住所	長野市戸隠栃原6960番地	TEL
管理者の氏名・名称	巖窟観音堂保存会 会長 田畑 寛善	
住所	長野市戸隠栃原7052番地	TEL 026-252-2827
指定基準	<p>「長野市指定有形文化財等の指定等に関する基準」 第1(7)建造物</p> <p>イ 技術的に優秀なもの ウ 歴史上重要なもの エ 学術上重要なもの</p> <p style="text-align: right;">に該当</p>	
指定理由等	<p>長野市戸隠栃原の田頭集落にある巖窟観音堂の縁起は古く、安和2年(969)の平維茂の鬼女紅葉討伐の伝説まで遡る。境内に生える市天然記念物の大杉は平維茂が植えたといわれる伝説をもつ。古くから伝わる鬼女紅葉伝説は、田頭の歴史、文化とともに伝承されている。</p> <p>巖窟観音堂の建築年代を遡ることのできる史料は、拝殿脇の板壁に確認できる文政8年(1825)の墨書が最古である。拝殿の一部虹梁以外の彫刻は、材の風蝕具合や彫りの深さから同時期のものと判断でき、建築当初のものと推定される。立川和四郎富昌(1782-1856)が活躍した時代が墨書に示された文政8年の時期と一致することから、19世紀前半以前の建築と比定される。</p> <p>本建造物は、山岳地域に立地している懸造として貴重である。前面にたつ拝殿とその奥の巖窟を奥殿にした構成は、独特の宗教的オーラ(雰囲気)を醸し出している。床下の架構が独特で、傾斜面及び巖窟という立地条件に対して、曲がった水平材を巧みに組み合わせ、その上に垂直材をたてることで床を支えている。一般的な懸造にみられる床を支える長い柱はなく、その架構の形は他に例を見ない。希少性の高い建造物であるといえる。</p> <p>田頭の巖窟観音堂は、特徴的な架構が見られ、貴重な建築遺構である。住民による保存団体が組織され、調査や保存活動に取り組んでいる。現在の保存状態も良い。文化財的価値が高い本建造物は、長野市地方文化財にふさわしいものである。</p> <p>長野市の有形文化財(建造物)として指定することが適当である。</p>	

# 断面図



戸隠田頭の巖窟観音堂 東側断面図 (S=1/80)

0 100 200  
0.1m

## 写真

写真1 (2016. 8. 4)  
南西側 外観



写真2 (2016. 8. 4)  
西側 外観



写真3 (2016. 8. 4)  
戸隠田頭の巖窟観音堂  
南側 外観

